



関西万博閉幕まで2週間を切る！ 木材利用促進はどうか？

開催に対して批判の嵐で始まった関西万博も 10/13 閉幕を迎える。スタートこそ観客が少なく心配されたが、既に採算ラインを超えたという。パビリオンの建設工期遅れや、工事費未払などトラブルが続き批判が続出した。大屋根リングについても様々な意見が出たが、現在、レガシーとして残そうという動きも出ている。何事でも新しい事をやる時には批判はつきものだが、無事に閉会を迎えられそうで関係者の努力に敬意を表したい。

今回、我々の期待を膨らませたのは、持続可能性や環境配慮の観点から、大屋根リングを初め多くのパビリオンで木材が積極的に使われた事だ。55 年前の大阪万博では木材は「古い素材」として使われなかった事とは隔世の感がある。

ところで、持続可能で自然に優しい木材を使った住宅着工は未曾有の低迷となっている。平成 20 年のリーマンショックで年間 78 万戸となったが、その後の消費税 8%、10%という時代でも何とか 80 万戸以上を維持してきた。しかし、令和 6 年度はリーマンショック時に次ぐ 79 万戸となった。今年度は 4 月の建築確認厳格化により申請書類が増えた分、確認に時間が掛かり、認可が遅れている。更にローン審査厳格化の為、住宅着工は 76 万戸になると予測される。コロナショックで木材が高くなり、木造住宅が高くなったと言われるが、当時の木材価格でも 50 年前の木材価格より安かった事、コンクリートや建材、住設機器の高騰が主要因である事をしっかり伝えたい。丸太価格も低迷しているが、製品価格はさらに厳しい状況だ。従来、大型工場は在庫が増えると在庫処分を行い、値崩れを起こしていたが、現在は安くしても売れる気配はない。売れないので価格を維持しているのが今の状況だ。何時まで我慢すれば持続可能で環境に優しい木材の利活用が活性化するのだろうか？ 災害防止や国土機能保全強化の為の森林整備に利用される森林環境譲与税を二酸化炭素固定に対する補助として国産材を利用した木造住宅に、その使用量（炭素固定量）に応じて支給しても良いのではなかろうか？ 関西万博で紹介された木材の良さをもっと身近に感じられることを期待したい。

【情報】

令和 7 年度 労働安全衛生大会が開催されます！

鹿児島でも林業を始め木材関連の死亡事故が増えています。

事故を防ぎ、健康で安全な生活を送る為に参加しませんか。

日時 令和 7 年 10 月 31 (金) 13:30~16:00

場所 川商ホール (鹿児島市民文化ホール) 第 2 ホール

講師 徳永 龍子氏 (鹿児島純心大学名誉教授)

主催 (公社)鹿児島県労働基準局・他

【定休日】

10 月は 4, 5, 11, 12, 18, 19, 25, 26 日

11 月は 2, 8, 9, 15, 16, 22, 23, 30 日となります

宜しく願います



令和 7 年度 労働安全衛生大会

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)